

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Repeated 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy following electro-curettage for pigmented basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	色素性基底細胞癌に対する電気搔破術と 5-アミノレブリン酸光線力学療法の反復併用療法	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ15-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID	10692817	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号	1	
	ページ	10-15	
	ISSN ナンバー	0385-2407	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Itoh Y	Department of Dermatology, National Defence Medical College 防衛医科大学皮膚科
その他著者 1		Henta T	
その他著者 2		Ninomiya Y	
その他著者 3		Tajima S	
その他著者 4		Ishibashi A	
その他著者 5			
その他著者 6			

8 項目		価する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	1 大学病院	
	対象者	頭部・顔面の色素性基底細胞癌患者 14 名の 15 病変	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 15 ）	
	介入（要因曝露）	電気搔破術後にアミノレブリン酸（外用、滴下）PDT を施行。2、3 週間隔で 3～5 回繰り返す。	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	4 週後の組織学的な完全奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	4 週以後の再発の有無	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	14 病変（13 例）において組織学的な完全奏効が得られ、1 例は部分奏効、1 例は無効であった。6 ヶ月から最長 13 ヶ月のフォロー期間のなかでは再発症例は見られなかった。	
	結論	色素性基底細胞癌に対する電気搔破術後の光線力学療法（PDT）の反復施行は有用であった。	
	備考	結節・潰瘍型が 14 病変、表在型が 2 病変	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（I V） PDT では tumor thickness の厚い腫瘍や色素性病変では有効性が劣るとされるため、欧米と異なり基底細胞癌の 8 割以上が色素性である日本人においては PDT の適応となり難い。著者らは PDT の施行前に搔破術を加えることによって治療効果を高めることを目的としている。一次アウトカムは腫瘍消退であるが、搔破術を併用している以上、奏効率が高いことはある程度予想できるため、再発の評価がより重要となる。全体にフォロー期間が短い点は残念であるが、日本人の基底細胞癌の特性に対応するための治療プロトコルであり、本邦における臨床研究という点では非常に貴重なデータとして評価できる。症例集積研究ともいえるが、適当にまとめた症例数を詳細かつ長期に観察しておりコホート研究に準ずるものと評価した。	